山階だより

令和５年度
臨時号

令和６年３月　１日
京都市立山階小学校
校　長　　上原　菜穂子

学校評価アンケートから見えてくるもの（後期）

感染症による制限も緩やかになり、子どもたちの学習環境は大きく改善されました。以前行っていたいろいろな取組も再開できました。これも保護者の方々や地域の方々のご支援・ご協力があってのことと考えております。ご協力いただきました後期の学校評価アンケート（１年生から６年生までの児童，保護者の皆様，教職員対象）の結果についてお知らせします。この結果については，大切に受け止め，今後に生かしていきたいと考えています。質問は，前期同様，知・徳・体・全般と４分野にわたって行い，質問項目の合計は２１でした。アンケートの結果の中で，山階小学校の特徴的な項目を紹介し，考察します。

良い点（そうおもう，だいたいそうおもう）が多い質問項目から（前期との比較）

下の表の数字は各質問項目で「そうおもう」または「だいたいそうおもう」と答えた割合（%）です。

前期結果
後期結果

		１年	２年	3～6 年	保護者	教職員
知①	学校の勉強はよくわかる。	９０．２ ９１．６	９２．５	９６．１ ９７．８	９５．３ ９２．６	１００ １００
徳①	学校は楽しい	８２．４ ９０．１	９５	９０．３ ８８．６	９６．６ ９７．６	１００ １００
徳②	友達と協力してなかよく過ごしている	９６．１ ９７．２	８７．５	９５，４ ９６．７	９７．９ ９６．７	１００ １００
徳⑤	家族や先生はよく話を聞いてくれる	９２．２ ９３．０	９２．５	９４．８ ９４．６	９１．２ ８８．７	９５ １００
徳⑩	複数の教員による指導	９８ ９５．８	９０	９９ ９２．７	９５．３ ９４．３	１００ ９４．１
全③	地域とのかかわり	９０．２ ８８．８	８７．５	８９ ８９．１	９８ ９６．７	９５ １００
体③	健康・安全への留意	９８ ９４．４	９５	９３．８ ９０．７	９８ ９５．１	９５ １００

前期から引き続き、子どもたちは「元気に登校　笑顔で下校」という学校教育目標を全うできる環境にあると言えます。その環境は「おもいやりのある友だち関係」や「地域と家庭と学校で子どもたちを大切にしている」という環境が礎となって成立していると考えられます。

ただ、「学校は楽しい」の項目では 3～6 年生は９割を超える肯定的な回答であったものが，2%ほど下回っています。学年など細かく見てみると、学校社会の中でのルールを受け入れられない場合に不満をもつ姿が見られます。集団生活のルールや規範意識の向上が課題と考えられます。１年生については ９２．５%が肯定的な回答をしています。約１０%の向上が見られました。学校に慣れ、友達と校庭で遊ぶ姿がよく見られるようになった様子とも合致した傾向です。ここ数年，連動していると考えていた「学校の勉強はよくわかる」という項目と「友達と協力してなかよく過ごしている」の項目は依然として高い結果を残しています。「友達との関係が良好だから」「学習がわかるから」学校が楽しいという図式は依然として成立すると考えられます。ただ、全体的に肯定的な回答が減少傾向にあることは、子どもたちの様子を詳しく見ていく必要があります。

前期の考察でも確認されましたが、山階校の教育の特色の一つは、「地域の方々の学校教育活動への参画」です。地域・家庭・学校が三位一体となっているからこそ「家族や先生はよく話を聞いてくれる。」「地域とのかかわり」の質問項目で肯定的な回答が多くみられるようになったと考えられます。感染症対策として人との接触が制限されていたころと異なり、地域の先輩にお世話になって学習をする機会が増えてきました。それぞれの取組の中での支援は大切な財産として継続していく必要があります。

「健康・安全への留意」は前期同様、高い肯定的な回答が見られます。登校時の安全を、みまもり隊や交通安全対策協議会や地域委員・保護者などの多くの方々に見守っていただいていることも子どもたちの理解につながっていると考えます。交通安全教室やクラスでの安全指導も効果が出ているようです。多くの登校班はきちんと列を作り、辻々で見守っていただいている方々の指導を守る意識も高いようです。下校時も多くの児童は安全に気をつけて帰っている様子が見られます。健康についても以前から意識が高い様子が見られます。ただ、「運動の力」という点には課題が見られます。春に行われる「新体力テスト」では全国の結果や京都市の結果と比べて多くの種目で下回る結果が出ています。その結果を受けて本年度はいろいろな体力向上に向けた取組を取り入れてきました。ただ、一時的な取組では効果が限られるので、継続した取り組みを開発していかなければいけません。「体力向上を目指した継続した取組」が来年度の課題になります。

評価が低かった点（あまりそうおもわない，おもわない）が多い質問から
表中の数字は肯定の比率

前期結果
後期結果

		1年	2年	3～6年	保護者	教職員
体 ①	基本的な生活習慣	78 91.6	90	89.7 90.2	96.9 93.1	95 100
知 ②	進んで読書をしている	74.5 86.0	82.5	82.5 83.0	71.8 59.4	90 100
知 ③	進んで家庭学習をしている	70.6 87.3	77.5	82.5 87.5↑	76.5 71.6	85 100
徳 ⑨	スマートフォン・PCの使い方	78 76.1	67.5	64.5 57.9	70.9 69.1	90 94.4

前期同様、基本的な生活習慣についてはもう少し多くの肯定的な回答が望まれます。「早寝、早起き、朝ごはん」が質問の内容です。特に、「早寝、早起き」については課題が見られ、低学年においても遅くまで起きているケースが増えてきています。子どもたちの様子を見ていると、朝の遅刻に対する危機意識が低下しているようです。前期にはほんの少しであった遅刻が後期になって増えているようです。また、「1時間目の始業までには登校する」という意識も薄れ、「今日は2時間目から」などと登校が遅くなるケースや遅刻する子どもたちが増えているように感じます。前期にも関連を考えたスマートフォンやゲームの使用との関連が考えられます。

「進んで読書をしている」は、ここ数年課題となっている質問項目です。今回の回答はまだ好ましい結果とは言えません。特に、保護者の方の肯定的な回答の低下はしっかり考える必要があります。学校では朝の全校読書や図書館利用の様子から読書への親しみは向上しているように見えます。家庭での読書が少ない回答は、家庭では「読書」以外の楽しみがあり、なかなか読書に向かないためだと推察できます。学校での取組を推進して、「家でも読んでみようか」と考えられるように進めていきたいと考えています。高学年の子どもたちが受け、学力の指標となるテスト（全国学力学習調査、ジョイントプログラム）の国語のテストでは、ある一定の傾向が見られます。それは、文章を書き、解答する問題での正答率の低さと無回答率の高さです。簡潔に述べると、「文章で答える問題（「50字以内で書け」等）は歯が立たないか、初めから諦めるかといったことが多くあるようです。テストのためではありませんが、もう少し文章を書いたり読んだりすることの力をつけるために、読書に親しむ習慣をつけられればと考えます。

スマートフォンの課題は多岐にわたります。前期のアンケートの考察でも記しましたが、「基本的な生活習慣」との関連が高いと考えます。遅くまで使っており、就寝時刻が遅くなっている例が多くあります。この習慣で朝の体調不良を誘発しているケースも多くあります。遅刻回数や欠席回数が確実に増えています。昼夜逆転して「体調が悪い」そして「欠席」とつながっています。明確なルールなく使っていると多くの問題に巻き込まれます。学校では日々のモラル学習に加えて、外部の講師を招いての「情報モラル教室」を実施しています。

アンケート結果を見て、山階小学校は地域と家庭と学校が三位一体となって教育活動を行っていることを再確認しました。これからも地域、家庭とより連携して工夫した教育活動を実践していきたいと考えています。